

Vol.34

平成25年
冬号

日赤たいむ

謹賀新年



今年も花餅をいただきました。

昨年に続き、今年も田中富士男さんから、立派な“花餅”を寄付していただきました。
寄付していただいた花餅は、当院正面玄関ホールに飾らせていただいておりますので、ぜひご覧ください。

放射線治療システム更新に伴う治療休止のお知らせ

期間:平成25年10月26日～平成26年3月31日

治療中止期間中についても、これまでどおり毎週金曜日に新患の受付を行い、患者さんのご希望を伺いながら依頼先の紹介及び調整をさせていただきます。長期間の治療休止で患者さんには大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

訪問看護ステーション廃止について

飛騨地域の医療・福祉等を検討した結果、「平成26年3月31日をもって訪問看護ステーションを廃止する」との結論に至りました。関係者の皆様方には多大なるご迷惑をお掛けします。今後は、利用者ならびに主治医へ順次説明し、ご協力いただけます訪問看護ステーションへの円滑な引き継ぎを実施していく所存です。何卒ご理解とご協力を願いいたします。



あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひいたします。

高山赤十字病院 病院長 棚橋 忍



新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

当院は、平成17年より「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。平成19年より、がん対策基本法が施行され、現在は、この法律に基づいて「がん診療の均てん化」「がん難民の防止」を基本に据え、「診断」「治療」等が全国的に展開されています。

これにより病院の機能としては外来化学療法室、放射線治療室、集中治療室、がん相談室等を備えることが必要となります。また、医師、看護師など関係する職員にはがん診療に関する専門性が求められています。

昨年より準備してきました放射線治療装置(以下リニアック)が、いよいよ4月から稼働します。今回の装置は、強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導は放射線治療(IGRT)といった高度な放射線治療が可能であり、病変部に限定した照射が安定的に出来ることから、健康な周辺組織、臓器への照射が少なくなり、副作用を今まで以上に減らすことが出来ると考えています。また、同時にリニアック室も改修し、患者さんへの治療・療養環境を

改善します。

現代は、国民の2人に1人が何らかの「がん」になり、3人に1人が「がんで死ぬ」と言われています。自分が「がん」にならなくても、家族の誰かは「がん」になると報告されており、がんの治療は人ごとではないと思います。昨年は、市民公開講座「がんの緩和ケア」において、「未来を担う子供たちへの教育」として実践されている「いのちの授業」を参考に、高山市の教職員の皆さんにも参加していただきセミナーを行ったところ、良い評価をいただくことができました。これから、がんについて語る機会が家庭の中や社会で増えることを心から期待しています。

本年も地域の皆さまのご支援をお願い申し上げます。

全国初!『重症心身障がい児者訪問看護活用モデル事業』

新生児医療の進歩により、救命される児が多くなる一方で現行の制度では、継続的な医療的ケアが必要な状態であっても、退院しなければならない状況にあります。人工呼吸器装着など高度の医療的ケアを必要とする重症心身障がい児者の介護は、24時間保護者に頼りきりになっていることも多く、保護者に大きな負担がかっています。重症心身障がい児者が在宅・地域で暮らしていくためには、医療機関、訪問看護ステーション、福祉サービス事業所や行政等の多くの支援機関が連携し、児と家族をサポートしていく必要があります。しかし、飛騨地域にはこのような児を支える医療・福祉資源が乏しい現状があります。

特に短期入所については、高いニーズがありながら、地域では利用できる施設がなく、岐阜県や関係機関と当事業について協議を重ねてきました。

新たに創設された事業は、日々ケアを行っている外部訪問看護ステーションの看護師を、当院の非常勤職員に一時的に雇用し、期間限定として当院小児科病棟に短期入所するものです。いつも訪問してくれる看護師が継続して児をケアすることで、児や家族が安心して短期入所することができます。

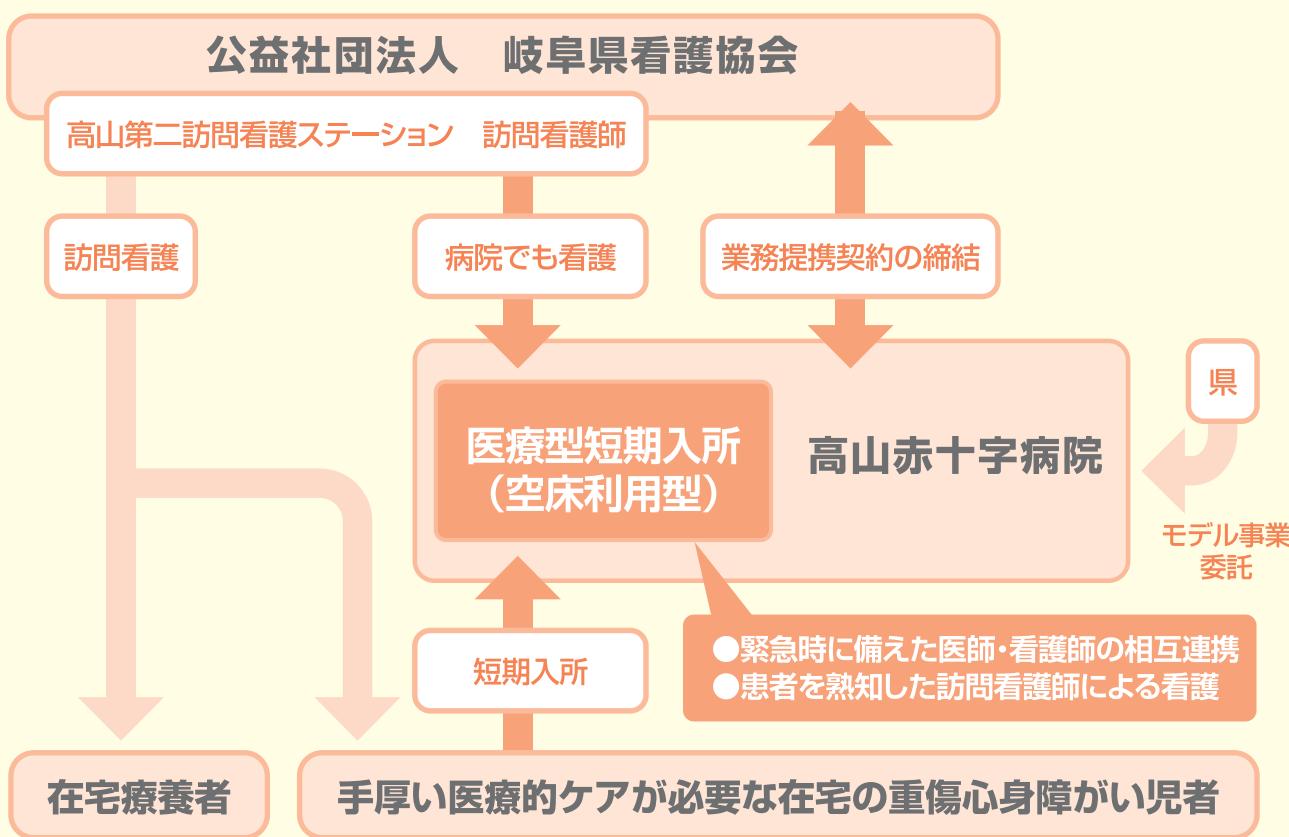
今年度は、7月から10月の4ヵ月間で2名の方が計5回利用されました。ご家族からは「初めて家族で外出ができる、姉2人が大変喜んだ。」「いつもは

夜間の吸引が頻回で眠れませんが、今日はぐっすり寝ることができました。」「夫婦で出かけることができなかつたが、ゆっくり買い物ができた。」と喜びの声を聞くことができました。

小児在宅医療は、家族の熱意によって支えられている部分が大きいと言われていますが、高齢者のみならず、療養の場を在宅へと転換していく國の方針のなかで、今ある社会資源や関係機関との連携を有効活用する努力や工夫が必要です。

このモデル事業を通して、福祉と医療の連携が更に進むように、行政と密接な連携を図りながら進めています。

訪問看護活用短期入所モデル事業イメージ図



市民公開講座「がんになつたら緩和ケア」



平成25年11月16日に市民公開講座『がんになつたら緩和ケア・いのちの授業』を開催しました。

今回は飛騨教育事務所、高山市教育委員会のご協力で、教職員31名を

含む107名の方にご参加いただきました。

講座内容は、中学校3年生向けのがん教育プログラムを一部改変し、DVDの視聴、レクチャー、

がん相談員による事例紹介、グループワークを行いました。

皆さんからは、「重いテーマなのに和やかな雰囲気の中で考えることができた。」「家族や家庭のことを考える

良い機会になった。」などの感想をいただきました。

これからは、緩和ケアチームでは、中学校で行われる「いのちの授業」にも協力したいと考えています。



医療従事者のための飛騨地域緩和ケアセミナー



平成25年11月16日に『第5回がん診療に携わる医師、職員のための飛騨地域緩和ケアセミナー』を開催しました。

今年はシンポジウム形式で、緩和ケア認定看護師と訪問看護師からの発表、参加者を含めて飛騨地域の緩和ケアの現状などを検討するディスカッションを行いました。発表は、実際にあった

事例の提示で、写真紹介もあり非常にわかりやすく心に響く内容でした。

95名の参加者(看護学生含)が、自宅において少しでも快適に過ごせる環境づくり、在宅を視野においての緩和ケアのアプローチがとても重要であることを共有できました。

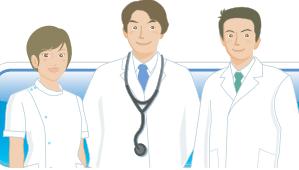
アンケートでは、「飛騨の緩和ケアの現状が知れてよかったです。」「緩和ケア

について連携が大切であることが再認識できた。」「有意義な時間を共有することができた。」という意見がたくさんありました。また、地域がん診療連携拠点病院の役割である地域医療者へのセミナー開催について、このような機会を継続して持つ必要性も実感できました。

看護学生からの質問などを通して、医療者だけでなく、学生にも学習の場を提供し参加して頂くことがとても大切であると思いました。

参加者も主催者も非常に勉強になり、得ることの多いシンポジウムでした。





新任医師の紹介



内科 大西 雅也

はじめまして10月より高山赤十字病院内科に赴任となりました大西雅也と申します。

私は名古屋市立大学を卒業し、同県内の病院にて初期研修を経て岐阜大学病院消化器内科に勤め今回高山に赴任となりました。高山の街並みはとても美しく、また市民の皆さんもとても温かな印象があります。これから寒くなり不安もありますが、皆さんの健康のために努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。



脳神経外科 山内 圭太

10月1日より脳神経外科に赴任しました山内圭太と申します。出身は岐阜県可児市で平成17年に岐阜大学を卒業致しました。前任地は大阪吹田市の国立循環器病研究センターで主に脳血管障害の勉強をさせて頂いておりました。赴任して2か月ほど経過しましたが、脳卒中の患者さんも多く、飛騨地域の脳卒中医療の重要さを実感しております。ご迷惑をおかけすることも多いと思いますがよろしくお願ひいたします。



産婦人科 佐藤 香月

10月1日より岐阜大学医学部附属病院から転勤となりました佐藤です。研修医時代の地域研修で、1ヶ月間高山でお世話になり、高山の皆さんとの温かさに触れ、楽しく研修させて頂きました。この度、産婦人科医として再度赴任させて頂くこととなり、嬉しく思っております。お産のサポートから、婦人科疾患と幅広い年齢層の方と、会話を大切にしながら診療をしていきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。



耳鼻咽喉科 内藤 裕介

この度岐阜市民病院より転勤となりました内藤裕介と申します。

高山の医療に貢献できるように頑張ります。どうぞよろしくお願ひします。

栄養課おすすめ!簡単レシピ

お餅のねぎ焼き (1人分296kcal)

作り方

- ①フライパンにサラダ油を入れて、小口切りのねぎをしつかり炒めます。
- ②電子レンジで加熱して柔らかくなつたお餅を、ねぎの上にのせて焼きます。しょうゆで味付けして花かつおをかけて出来上がり。

材料(2人分)

- お餅 2 個
- ねぎ 100g
- 花かつお 3g
- サラダ油 少々
- しょうゆ 適量

